

第38回 国際生物学賞記念シンポジウム

魚の生物学 その生態、進化と発生

Commemorative Symposium for the 38th International Prize for Biology
"Biology of Fishes: Ecology, Evolution and Development"

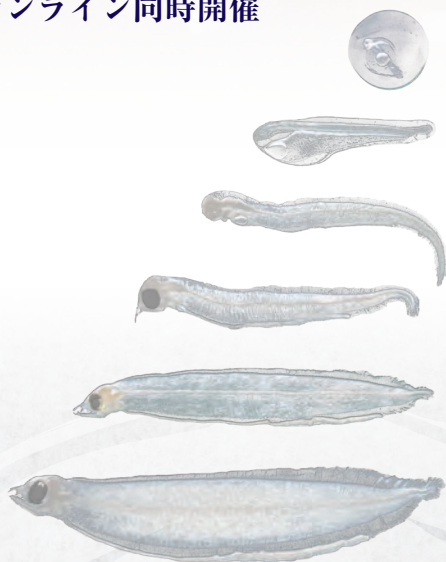
2022. 12. 17^土・18^日

会場

岡崎コンファレンスセンター

〒444-0864 愛知県岡崎市明大寺町伝馬8-1

※オンライン同時開催



国際生物学賞 記念シンポジウム

塚本博士の受賞を記念し、国際および国内向けシンポジウムを開催します。
最新情報はウェブサイトをご覧ください。(参加申し込み必要、参加費無料)

<https://www.nibb.ac.jp/ipbsympo38/>



第38回 国際生物学賞受賞者

塚本 勝巳 博士

Dr. Katsumi Tsukamoto

東京大学名誉教授

Professor Emeritus, The University of Tokyo

「ニホンウナギ産卵場の発見」

塚本勝巳博士は、古来より人々の興味をかき立ててきた「動物の旅」に関心を抱き、特に海と川を行き来する「通し回遊魚」に関する研究を展開しました。塚本博士の最も偉大な功績は、海洋生物学に残された最大級の謎であったニホンウナギの産卵場の発見です。博士は1990年代以降、世界のウナギ研究を先導し、有史以来の謎であったウナギの産卵回遊生態の全貌を解明しました。この研究は先生ご自身が執筆された「うなぎのなぞを追って」と言うタイトルで小学校4年生の国語の教科書(光村図書)にも掲載されています。

以上のように、塚本博士は魚の生物学の発展に大きく寄与したばかりでなく、自身の知識や経験、哲学を提供することにより、広く調和的かつ持続的な人類社会の発展への貢献は高く評価されるものであり、第38回国際生物学賞の授賞対象分野「魚の生物学」に最もふさわしいと判断され、授賞が決定されました。

国際生物学賞は、昭和天皇の御在位60年と長年にわたる生物学の御研究を記念するとともに、本賞の発展に寄与されている上皇陛下の長年にわたる魚類分類学(ハゼ類)の御研究を併せて記念し、生物学の奨励を目的とした賞です。

主催：日本学術振興会／自然科学研究機構 基礎生物学研究所

後援：公益社団法人日本水産学会／公益社団法人日本動物学会／岡崎市教育委員会／NBRP×ダカ

問い合わせ：第38回国際生物学賞記念シンポジウム実行委員会

(TEL) 0564-55-7596 (E-mail) ipbsympo38@nibb.ac.jp



シンポジウム 1 12月17日(土) 研究者向け英語講演

※会場・オンライン同時開催(参加登録、詳細はウェブサイトをご覧ください。)

<https://www.nibb.ac.jp/ipbsympo38/> 参加費無料



- 9:05~9:35 Jun Aoyama (The University of Tokyo, Japan)
Discovery of Japanese eel spawning sites: A major scientific achievement of Dr. Katsumi Tsukamoto
*Lecture on behalf of Dr. Katsumi Tsukamoto
- 9:40~10:10 Eric Feunteun (National Museum of Natural History, France)
The eel syndrome: a thirty years quest to unravel the mysteries of iconic and threatened fishes
- 10:15~10:45 Kurt Fausch (Colorado State University, USA)
Food webs in space: the influence of individual fish behavior on linked stream-riparian ecosystems
- 11:00~11:30 Lynne R. Parenti (Smithsonian Institution, USA)
Phylogeny and Diversity of the Medaka and Relatives: Discoveries and Challenges
- 11:35~12:05 Masaki Miya (Natural History Museum and Institute, Chiba, Japan)
The mitogenomic contributions to molecular evolution and ecology of fishes: revealing the patterns of diversity through space and time
- 13:30~14:00 Catherine L. Peichel (University of Bern, Switzerland)
Replaying the tape of life: how predictable is evolution?
- 14:05~14:35 Manfred Schartl (University of Würzburg, Germany)
Structure, function and evolution of fish genomes
- 14:40~15:10 Goro Yoshizaki (Tokyo University of Marine Science and Technology, Japan)
Germ cell manipulation in fish: Little tuna produces bluefin tuna sperm
- 15:30~16:00 Hideaki Takeuchi (Tohoku University, Japan)
Exploring the neural geography of the fish social brain
- 16:05~16:35 Didier Stainier (Max Planck Institute for Heart and Lung Research, Germany)
Genetic compensation in zebrafish, and beyond

シンポジウム 2 12月18日(日) 一般向け日本語講演

※会場・オンライン同時開催(参加登録、詳細はウェブサイトをご覧ください。)

<https://www.nibb.ac.jp/ipbsympo38/> 参加費無料



- | | | |
|-------------|--------------------|---------------------------------|
| 9:05~ 9:50 | 黒木 真理 (東京大学) | うなぎ博士・塚本勝巳先生の超然たる研究から学んで |
| 9:50~10:20 | 渡辺 佑基 (国立極地研究所) | マグロの速度、サメの奇妙な泳ぎ方 |
| 10:20~10:50 | 石川 麻乃 (東京大学) | ゲノムから探る! 海から離れたサカナたちのサバイバル術 |
| 11:00~11:30 | 佐橋 玄記 (水産研究・教育機構) | 海へ行く? それとも川に残る? —サケ科魚類にみる2つの生き方 |
| 11:30~12:00 | 前田 健 (沖縄科学技術大学院大学) | 海を渡る淡水魚 |
| 12:00~12:30 | 平瀬祥太郎 (東京大学) | 日本海の隔離がもたらした魚の進化 |
| 13:40~14:10 | 川口 眞理 (上智大学) | タツノオトシゴに見られる育児嚢の進化 |
| 14:10~14:40 | 四宮 愛 (基礎生物学研究所) | 季節の変化と生物の変化 —メダカで調べる動物の季節適応 |
| 14:40~15:10 | 竹花 佑介 (長浜バイオ大学) | メダカの多様性からわかったオスメス決定のしくみと進化 |
| 15:20~15:50 | 横井 佐織 (北海道大学) | メダカの恋愛学 |
| 15:50~16:20 | 神田 真司 (東京大学) | 脳から調べる魚の繁殖生理学 |
| 16:20~16:50 | 津田佐知子 (埼玉大学) | 光で探る脳の発生のしくみ |